事業部連載企画 5

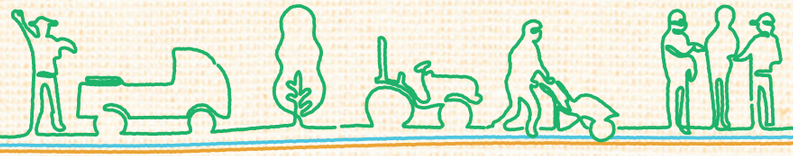
全農に密着

総合エネルギー部

主な事業内容
- 電力事業…「JAでんき」の供給
- ガス事業…「クミアイガスプロパン」の名称でLPガスを供給
- 石油事業…ガソリン等の燃料油を供給

JA全農は、組合員の営農・生活コストを削減し、豊かな暮らしを実現するため、電力小売事業「JAでんき」を展開しています。既存の送配電網を使いながら、より安価に提供する他、再生可能エネルギーの取り組みもスタート。ガス、石油、電気のホームエネルギー全てを扱う総合エネルギー部に、「JAでんき」や今後の再エネ開発についてお聞きしました。

「JAでんき」で豊かなくらし実現



家計に優しく営農コストも削減

Q JAでんきとは？

2016年の電力小売自由化を受け、組合員やJAグループ施設のコスト削減に貢献するため、同年に電力事業に参入しました。今でこそ地方にも多くの業者が参入していますが、当初は農村地域に新電力が少なく、自由化の恩恵を組合員の皆さまにもお届けすることがJAグループの使命と考えました。

全農と小売り電気事業者である全農エネルギー㈱が電源調達を行い、既存の送配電網を利用して電気を提供する仕組みです。これまでと同様に安心して使用できるだけでなく、より安価な料金体系でコストが抑えられるのが特長です。

Q 利用状況は？

全国140のJAや関連会社が代理事業者となり、LPガスや灯油の配送・点検等で組合員を訪問する際に、切替後の料金を試算して導入を提案。6月中旬時点で約3万8000戸の組合員と約5000件のJA等法人施設に契約いただいています。JAだけでなく、生産者からも「安くなった」「JAだから安心」などと好評です。

Q 今後の展望は？

ホームエネルギーの全てを扱っていることが強みです。ガスとのセット割など強みを生かした提案で、ワンストップのサービス提供を目指します。また、社会的に脱炭素に資する取り組みの重要性が増していることから、実質再エネ100％の電力を提供する「再エネ特約」を昨年からスタートしました。

今後、AIを使って電力需要を調整するデマンドレスポンスなど新たな取り組みも検討し、さらなる電力コストの削減を通じて組合員の営農・くらしに一層貢献していきたいと考えています。

JA全農
総合エネルギー部
電力課
目高 彰郁さん

2010年入会。相対契約で調達する電源量の検討や各社との交渉・契約に加え、制度変更への対応などを担当。

再エネ開発でエネルギーを〝地産地消〟

Q 再エネ開発について教えてください。

JAグループの脱炭素化に向け、PPA（電力購入契約）と呼ばれる自家消費型の太陽光発電に力を入れています。全農エネルギーが太陽光発電設備を設置・管理し、発電した電気をその施設で自家消費する仕組みです。施設側は、初期投資や管理の手間なく再エネが導入でき、Aコープなどを中心に徐々に導入が広がっています。

太陽光と蓄電池のセット導入で停電時にも一部機器を使用可能とし、地域の防災拠点としてBCP（事業継続計画）対策も期待できます。

Q 今後の目指すべき姿は？

将来的にはJAグループの施設等を有効活用し、地元でつくったクリーンな電気を地域の組合員に利用してもらう「エネルギーの地産地消」で環境に配慮した地域社会を構築。地域内での経済循環や地域活性化につなげることを目指しています。コスト面での課題はありますが、蓄電池の普及に向けた検討なども進めていく計画です。

PPA事業でファーマーズ店舗の屋根に設置された太陽光発電設備

全農エネルギー㈱
電力事業部
（総合エネルギー部から出向）
横田 剛さん

2004年入会。再生可能エネルギーの開発、特にAコープ店舗などへのPPAの推進を担当。